

継続と変革

代表取締役社長 柏崎 昭宏
Kashiwazaki Akihiro



本年6月27日付けで社長に就任いたしましたので、ご挨拶申し上げます。

「IIC REVIEW」は平成元年4月の創刊から年2回の発刊を続け、今回創刊から56号を迎えることができました。本誌は当社の技術成果の蓄積の記録であり、技術への挑戦の記録です。その意味で四半世紀を超える歴史を刻むことができましたことは当社の誇りです。この場をお借りして、関係各位のご指導、ご鞭撻^{べんたつ}に厚く御礼申し上げます。

私は当社に着任するまで、IHIの研究開発部門に所属しておりました。本誌の兄貴分に当たる「IHI技報」には、何度か投稿しましたし、企画・編集にも携わりました。その経験から、企業において技術雑誌の継続刊行はそれほど簡単なことではないと知りました。

IHI技報は今年で78年目を迎える長い歴史をもっています。創刊当時から技術論文が中心の構成で、論文のレベルの高さは社内外から評価されていました。しかし、執筆者の中心を担う研究開発員は、研究開発の成果をそれぞれの所属学会の論文集に投稿することを目指すようになり、従来の論文中心の構成では継続することが難しくなってきました。また、IHI技報を採用活動や製品紹介にも活用したいという社内の声もあり、私が企画を担当したIHI技報創刊70周年記念号(2008年

発行)において、また定期刊行としても2010年から、理系の学生や若手技術者を対象としてわかりやすく技術や製品を紹介することとなりました。

いわば、IHI技報は時代の要請によって変わったといえるかもしれません。このことは製品やサービスにも通じるように思えます。世の中の動きが目まぐるしく変化する今、お客様のニーズに応じて、製品やサービスも変革しなければ、受け入れられなくなることは必定です。

当社は「技術をもって社会の安全に貢献する」を理念としています。技術こそ当社の原点です。製品やサービスの変革を支えるのも技術の積み重ねです。弛まぬ技術研鑽^{たんけん}を継続し、本誌をさらに充実させるとともに製品やサービスの変革に挑戦してまいりますので、皆様の一層のご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

蛇足

本誌のNo.53(2015/04)の随想コーナーで「初のフルマラソンにチャレンジします」という拙文を掲載させていただきました。大変有難いことに、結果はどうだったかというお問い合わせいただくことがあります。レース結果は何かの機会でご報告するとしていましたので、この場をお借りして、結果を報告させていただきます。4時間19分で完走できました。目標達成です。